

1993年(平成5年)5月3日(月曜日)

# 通院困難者へ

## 広がる歯科治療

通院困難な障害者や寝たきりの高齢者は、歯の診療を受けたくても敬遠されがちだ。治療に必要な器具が多いため往診が難しかったり、診察台に乗せるのに手間がかかるなどの理由からだが、札幌市が六月から在宅の寝たきり老人の訪問歯科事業を開始するなど、徐々に門戸が広がってきている。

# 寝たきり高齢者や障害者

現在、道内で寝たきり高齢者の訪問歯科事業をしているのは旭川市と帯広市。旭川市は一九八八―九一年、帯広市は九二―九四年の国のモデル事業の指定を受けた。国の基準では六十五歳以上が対象だが、旭川市は指定期間終了後、四十歳以上にまで広げた。歯科医や歯科衛生士が対象者の家を訪れ、検診や歯磨きの指導などを行っている。治療が必要な場合は、往診などの費用を含め、通常の保険診療となっている。昨年度は旭川市で五十三人、帯広市で百四人が利用した。

# 旭川、帯広で訪問事業

6月から札幌でも

市の場合もおおむね同じシステム。初年度の利用希望者を百五十人程度と見込んでおり、在宅の寝たきり老人で、歯の治療を要する人のほとんどが受けられるだろうという。

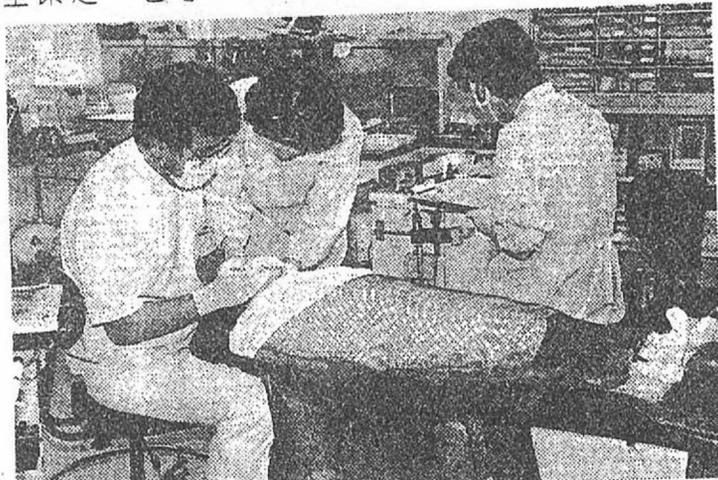
三市とも、保健婦が訪問した時などに申し込む方法をとっている。

三月に診療を開始した日之出歯科真駒内診療所は十四床の入院施設がある。工藤慶生

# 健康改善の間接効果も

院長は「歯科治療が進歩し、寝たきりの人でも自前の歯を持つようになる人が増えている。歯科疾患を持つ通院困難な人でも、入院して集中的に治療すれば、後は往診で対応できる」と語る。

北大歯学部は「歯が治ると食べられるようになると、栄養状態がよくなる。寝たきりから回復した患者にも積極的にアプローチを」と語る。



障害児の歯科検診。患者が動いて危険なときなどは、ネットをかけることもある＝札幌歯科医師会立口医療センター

を一本化した。同部には障害者治療部門など、四つの部門がある。

同歯学部小児歯科学の小口春久教授は「障害者を診療する施設がほかにもでき、北大には歯科治療にこころをかけた書を持つ人が集中してきた。特に最近では、心臓疾患を持つ患者が目立つ。これからは患者会にも積極的にアプローチを」と語る。

「歯が治ると食べられるようになると、栄養状態がよくなる。寝たきりから回復した患者にも積極的にアプローチを」と語る。

「歯が治ると食べられるようになると、栄養状態がよくなる。寝たきりから回復した患者にも積極的にアプローチを」と語る。

「歯が治ると食べられるようになると、栄養状態がよくなる。寝たきりから回復した患者にも積極的にアプローチを」と語る。

「歯が治ると食べられるようになると、栄養状態がよくなる。寝たきりから回復した患者にも積極的にアプローチを」と語る。